

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名 一般国道359号 砺波東バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局
起終点 自：富山県砺波市 ^{せんだんのせりたに} 榎野芹谷 至：富山県砺波市 ^{たかんどう} 高道	延長 6.1km	
事業概要 一般国道359号砺波東バイパスは、急カーブ区間や道路幅員狭隘区間の解消、老朽橋梁（太田橋）の代替路確保などを目的とした、約6.1kmのバイパス事業である。		
H9年度事業化	H4年度都市計画決定	H9年度用地着手
H10年度工事着手		
全体事業費 210億円	事業進捗率 47%	供用済延長 2.3km
計画交通量 9,400台/日～21,200台/日		
費用対効果 分析結果 B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/事業全体 86/211億円 (事業費：80/205億円) 維持管理費：6/6億円	総便益 (残事業)/事業全体 216/253億円 (走行時間短縮便益：211/247億円) (走行費用減少便益：4/5億円) (交通事故減少便益：1/1億円)
基準年 平成18年		
感度分析の結果 残事業費について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.2～2.7（交通量±10%） 事業期間変動：B/C=2.4～2.6（事業期間±20%） 事業費変動：B/C=2.3～2.8（事業費±10%） 割引率変動：B/C=2.0～3.2（割引率±1%）		
事業の効果等 ・急カーブ・道路幅員狭隘区間の解消 ・老朽橋梁（太田橋）の代替路確保 他9項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 国道359号は、富山市と金沢市の交流を支える幹線道路であり、急カーブや幅員狭隘区間の解消、老朽橋梁の代替路線確保など期待される効果は大きい。砺波市及び南砺市で構成される砺波広域圏事務組合などより建設促進の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 特になし		
事業の進捗状況、残事業の内容等 砺波市頼成から久泉間（L=2.2km）については、用地買収及び工事中である。 砺波市榎野芹谷から頼成間（L=1.6km）については、地元協議中である。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 砺波市頼成から久泉間（L=2.2km）については、用地買収及び工事を推進しており、平成20年代前半の暫定2車線供用を目指し事業を推進する。 砺波市榎野芹谷から頼成間（L=1.6km）については、地元協議中であり、引き続き協議を推進する。		
施設の構造や工法の変更等 プラスチック製品の積極的な活用及び大型化（長尺化）、建設発生土の有効利用、再生材を利用した舗装、路盤工の活用によりコスト縮減に考慮している。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 事業の効果並びに事業の実施状況を踏まえ、事業の継続が妥当である。		
事業概要図 		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。